

特集

平成三十年冬巡業 大相撲阿蘇高森場所



急に冷え込み、冬本番の寒さとなった12月8日(土)、高森町民体育館は日本が誇る国技「相撲」を見にきた2200人もの観客の熱気に包まれました。

2回目となる高森町での興行。前回は60年も前のこと。当時は、部屋別や一門ごとの開催だったため、全ての部屋の力士が一堂に会するのは今回が初めてです。

本場所との違い

11月25日(日)、福岡市で行われていた九州場所が千秋楽を迎えました。本場所は番付など、成績が左右する真剣勝負の取組が行われます。対して巡業は、力士との交流ができるほか、相撲甚句や禁じ手を滑稽に演じる初切などパフォーマンス色が強く、好角家でなくとも楽しめる内容です。

復興に勢いづけて

そもそも巡業は、相撲の普及や地域の活性化などを目的として行われるものです。

今回の高森場所では益城町、西原村、南阿蘇村の3町村から未だ仮設住宅などでの生活が続いている被災者の方々を招待しました。

また、町内3箇所の高齢者福祉施設を嘉風関と琴奨菊関が慰問。利用者と握手したり、四股を披露したりとファンサービスをしてくれました。利用者らは「あたたかい手だった」と大喜びでした。嘉風関は「長生きをして私と琴奨菊関を応援してください」と話しました。

た。

また郷土力士の正代関と佐田の海関が南阿蘇鉄道の高森駅を訪れ、地震以降、部分運行が続いている南阿蘇鉄道の現状を知ってもらいました。

佐田の海関は、「全線復旧した暁には是非乗りたい。その時まで関取でいたい」と明るく話しました。



▲南阿蘇鉄道(株)津留専務の説明に、熱心に耳を傾ける正代関と佐田の海関

この日特別に用意されたフルオープンのトロツコ列車に乗ると、正代関は窓の外を眺めながら、「熊本は『田舎』と言われるけど、『田舎』という言葉は褒め言葉だ」と目に映る風景に感嘆して言いました。



先発親方

尾上親方(元小結 濱ノ嶋)

にインタビュー

勸進元(主催者)との窓口として現場を取り仕切る役割の先発親方。高森場所の先発親方となった尾上親方にお話をうかがいました。



Q 高森場所は

いかがでしたか

大勢のお客様に会場にいらただき、役場を始め地元の方たちの協力で無事に終えることができました。

Q 先発親方の役割で難しいところはなんですか

巡業はきちんと段取りしていても、何かしらトラブルがつきもの。でも、高森場所は地元の方が細やかにお手伝いしてくれたので、トラブルは全く大成功でした。

Q 県内の新弟子を尾上部屋に迎えるそうですね

はい。「押し相撲」を得意とする子で、今いる力士で言うところの貴景勝みたいな相撲をとる子です。強い「郷土力士」になれるように育てていきます。これからも、応援宜しくお願いします。

尾上親方ありがとうございました！